



JA紀南 気象データ

令和7年 梅栽培暦

J A 紀 南
西牟婁振興局農業水産振興課監修
令和6年11月作成

★土壌診断を行い、適正施肥に努めよう！

農業中毒の相談は日本中毒情報センター(大阪) TEL072-777-2499(24時間対応)

月	小梅・古城・南高(青果用)					南高(漬け梅用)					重点作業
	防		除		使用基準	防		除		使用基準	
	病害虫名	薬剤名	倍数	収穫前日数	使用回数	病害虫名	薬剤名	倍数	収穫前日数	使用回数	
1	ノコトガリキリガ(ハナムシ)	サムコフロアブル10	5000倍	14日前まで	3回以内	ノコトガリキリガ(ハナムシ)	サムコフロアブル10	5000倍	14日前まで	3回以内	1 かいよう病対策 防風ネット・防風垣
1-2	灰星病	ベルコート(水)	2000倍	30日前まで	3回以内	灰星病	ベルコート(水)	2000倍	30日前まで	3回以内	
ミツバチ保護のため、開花期中防除厳禁！											
3	灰色かび病	ナティーポフロアブル	2000倍	前日まで	2回以内	灰色かび病	ロブラール(水)	1500倍	45日前まで	2回以内	3 凍霜害対策 防霜ファン
	かいよう病(がく落ちまで)	Zボルドー 又は ICボルドー66D	50倍	発芽前まで	-	かいよう病(がく落ちまで)	Zボルドー 又は ICボルドー66D	50倍	発芽前まで	-	
3	アブラムシ類	モスピラン顆粒(溶)	4000倍	前日まで	3回以内	アブラムシ類	モスピラン顆粒(溶)	4000倍	前日まで	3回以内	4 発芽期 灌水 霜天が1日~10日続いた場合 ヤニ果の予防(2~3回散布) ヨービB5(800倍)又は プラムエース(800倍)
	カイガラムシ類(幼虫)	アブロードフロアブル(アピオン-E1000倍加用)	1000倍	7日前まで	2回以内	カイガラムシ類(幼虫)	アブロードフロアブル(アピオン-E1000倍加用)	1000倍	7日前まで	2回以内	
4	黒星病	ベルコート(水)	2000倍	30日前まで	3回以内	黒星病	デランフロアブル	2000倍	14日前まで	2回以内	5 新梢伸長期 カメムシ捕虫灯の設置 紅南高づくり 4月下旬(1回目):摘心 5月下旬(2回目):摘心 収穫2週間前:摘葉
	かいよう病	デランフロアブル マイコシールド	2000倍 1500倍	14日前まで 21日前まで	2回以内 4回以内	かいよう病	マイコシールド カスミン液剤	1500倍 500倍	21日前まで 30日前まで	2回以内 4回以内	
4	黒星病	ベンコセフロアブル	1000倍	21日前まで	3回以内	黒星病	ナティーポフロアブル	2000倍	前日まで	2回以内	6
	かいよう病	マイコシールド	1500倍	21日前まで	4回以内	かいよう病	イオウフロアブル マイコシールド	500倍 1500倍	- 21日前まで	- 4回以内	
5	黒星病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	黒星病	オーソサイド(水)80	800倍	21日前まで	3回以内	7 徒長枝の間引き 剪定
	かいよう病(南高)	マイコシールド	1500倍	21日前まで	4回以内	かいよう病	マイコシールド	1500倍	21日前まで	4回以内	
5	すす斑病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	すす斑病	デランフロアブル	2000倍	14日前まで	2回以内	8 花芽分化期 灌水 土壌診断
	ケムシ類	フェニックスフロアブル	4000倍	前日まで	2回以内	ケムシ類	フェニックスフロアブル	4000倍	前日まで	2回以内	
5	すす斑病(南高)	インダーフロアブル	5000倍	前日まで	2回以内	すす斑病	ベンレート(水)	3000倍	7日前まで	1回	9 緑肥作物の播種 ヘアリーベッチ3~4kg/10a ナギナタガヤ2~3kg/10a ※ナギナタガヤは3月に施肥
	すす斑病(南高)	インダーフロアブル	5000倍	前日まで	2回以内	すす斑病	ベンレート(水)	3000倍	7日前まで	1回	
6	カイガラムシ類	モベントフロアブル	2000倍	7日前まで	3回以内	カイガラムシ類	モベントフロアブル	2000倍	7日前まで	3回以内	10 休眠期 土づくり 老木園の若返り改植 密植園の間伐
	カメムシ類	スタークル顆粒(溶)	2000倍	前日まで	3回以内	カメムシ類	スタークル顆粒(溶)	2000倍	前日まで	3回以内	
青果用小梅では、4月中下旬で防除を終了する。											
5	黒星病(南高)	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	黒星病	デランフロアブル	2000倍	14日前まで	2回以内	11 整枝・剪定 主枝は2~3本とする 古枝の間引きの徹底 弱樹勢樹はやや強く 切り返す
	すす斑病	ナティーポフロアブル	2000倍	前日まで	2回以内	すす斑病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	
5	ケムシ類	フェニックスフロアブル	4000倍	前日まで	2回以内	ケムシ類	フェニックスフロアブル	4000倍	前日まで	2回以内	12 土づくり 老木園の若返り改植 密植園の間伐
	コスカシバ	スターマイトフロアブル	2000倍	前日まで	1回	コスカシバ	スターマイトフロアブル	2000倍	前日まで	1回	
6	すす斑病(南高)	インダーフロアブル	5000倍	前日まで	2回以内	すす斑病	ベンレート(水)	3000倍	7日前まで	1回	9 緑肥作物の播種 ヘアリーベッチ3~4kg/10a ナギナタガヤ2~3kg/10a ※ナギナタガヤは3月に施肥
	すす斑病(南高)	インダーフロアブル	5000倍	前日まで	2回以内	すす斑病	ベンレート(水)	3000倍	7日前まで	1回	
6	すす斑病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	すす斑病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	10 休眠期 土づくり 老木園の若返り改植 密植園の間伐
	すす斑病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	すす斑病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	
6	アカマダラケシキスイ	フオニス顆粒(全面土壌混和)	10kg/10a	3日前まで	1回	アカマダラケシキスイ	フオニス顆粒(全面土壌混和)	10kg/10a	3日前まで	1回	11 整枝・剪定 主枝は2~3本とする 古枝の間引きの徹底 弱樹勢樹はやや強く 切り返す
	アカマダラケシキスイ	フオニス顆粒(全面土壌混和)	10kg/10a	3日前まで	1回	アカマダラケシキスイ	フオニス顆粒(全面土壌混和)	10kg/10a	3日前まで	1回	
漬け梅では水浸処理を30分~45分程度行う。											

★摘心・摘葉で紅南高づくり

収穫後の病害虫防除(多発時)

月	病害虫名	薬剤名	倍数	収穫前日数	使用回数	備	考
6-8	クピアカツカカミキリ	モスピラン顆粒(溶)	2000倍	前日まで	3回以内		
7	環紋葉枯病	トップジンM(水)	1500倍	21日前まで	3回以内		
8	ケムシ類 モモヒメヨコバイ	マブリック(水)20	4000倍	21日前まで	2回以内		
8	カイガラムシ類(幼虫)	アブロードフロアブル(アピオン-E1000倍加用)	1000倍	7日前まで	2回以内		
10	コスカシバ	フェニックスフロアブル	200倍	開花期まで	1回	樹幹部及び主枝に散布。 キクイムシと同時防除はガットキラー乳剤100倍(休眠期 2回以内)	
10-11	かいよう病	ICボルドー66D 又は ムッシュボルドーDF	50倍 500倍	発芽前まで 発芽前まで	- -	高温時には落葉することがある。	
11-12	白紋羽病	フロンサイドSC	500倍	60日前まで	1回	樹幹から半径1m程度の範囲に、1樹当たり50~100ℓを土壌灌注する。 収穫後から開花前まで(但し、収穫60日前まで)	
12	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	7~10倍	発芽前	-	石灰硫黄合剤に弱い品種には散布しない。(皆平早生など)	

- ボルドー剤は天候により薬害発生のおそれがある。
- 薬害軽減のため、Zボルドーにはクレフノン(200倍)を加用する。
- 多雨が予想される場合は、アピオン-E(1000倍)を加用する(薬斑注意)。

雑草防除	薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用量(散布水量)	使用回数
	バスタ液剤	1年生雑草 多年生雑草	収穫前日まで 雑草生育期	300~500ml (100~150ℓ)	3回以内
ザクサ液剤	1年生雑草 多年生雑草	収穫前日まで 雑草生育期	300~500ml (100~150ℓ)	3回以内	
タッチダウンiQ	1年生雑草 多年生雑草	収穫5日前まで 雑草生育期	250~500ml (25~100ℓ)	3回以内	
ラウンドアップマックスロード	1年生雑草 多年生雑草	収穫7日前まで 雑草生育期	200~500ml (50~100ℓ)	3回以内	

- タッチダウンiQ、ラウンドアップマックスロードの使用回数は両剤を合わせて3回以内。
- バスタ液剤、ザクサ液剤の使用回数は両剤を合わせて3回以内。

施肥基準(10a当り)	実肥(4月)	実肥(5月)	礼肥(収穫前後)	8~9月	元肥(9~10月)	土づくり(10~12月)
	FTE入り 梅有機化成S860 (8-6-10) 40kg	微量要素入化成408 (14-10-8) 40kg 又は 高度化成403 (14-10-13) 40kg	FTE入り 梅すももベレット (7-6-7) 140kg 又は 又は	低地力園では なたね粕 200kg 又は ケイフン 300kg	FTE入り 梅すももベレット (7-6-7) 100kg 又は 又は	<基準設計> バーク堆肥 2~4t 苦土石灰 140kg BMようりん 60kg FTE 6kg 有機質:プロ有機 100袋 ハイミン特号A200kg 腐植:アツミン 200kg リン酸:リンスター 60kg 石灰:セルカ160kg 又は 苦土セルカ2号160kg

- 施肥基準は青果南高収量2tを基本とする。収穫量に合わせて年間施肥量を加減する。

防除の注意点

- 隣接園、早期収穫品種への飛散に注意。
- ドリフト対策として、防風垣・防風ネットの整備を行う。
- 南高園で小梅・古城が入っている場合は小梅・古城に合わせた防除とする。
- 防除器具の洗浄を行う。
- 生産履歴の記帳は収穫後より始まります。
- 本暦は紀南地域の基本的な栽培暦です。栽培管理は気象条件や生育状況により調整して下さい。
- 本防除記載の農薬の登録内容は令和6年10月末日現在です。

省力型施肥例(主成分有機質の投入を省略する。)

礼肥省力・軽量型	
4月	てまいらず(12-5-8) 又は 又は 紀南省力梅配合(FTE入り)(16-6-7) 160kg 120kg
9月~10月	みらい(15kg)(11-5-7) 60kg
年間一回型①	
12月 3月	梅一発(180日)(14-11-13) 180kg ・結果量の多い樹は4月~5月に調整のための実肥を施す。
年間一回型②	
3月 4月上旬	梅ロング698(16-9-8) 160kg ・苗木には使用しない。